

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

卒業研究抄録集(看護学科)(2022.12)令和4年度:

,

立ち会い分娩による産婦および夫を含む家族への効果に関する文献検討

千葉木乃実 能登円華
(指導:山内まゆみ)

緒言

日本の夫立ち会い分娩は、1960年代に精神的産痛緩和法の1つ、ラマーズ法の導入をきっかけに広まり、その割合は平成11年に36.9%から、平成25年には57.4%に上昇した¹⁾。夫立ち会い分娩の効果は、父性が早期に高まり、育児や家事への積極性がみられることなど、様々な効果がある²⁾。しかし、2020年1月以降、新型コロナウイルス感染者の拡大により³⁾、2020年に日本産婦人科学会から感染予防対策のため立ち会いを制限すると伝えられる⁴⁾など、夫に限らず分娩時の立ち会いが困難な状況となっている。

そこで本研究の目的は、立ち会い分娩による効果を文献から明らかにし、コロナ禍であっても、立ち会い分娩による効果が得られる支援を考える一助とすることであった。

方法

1. 研究対象文献:医学中央雑誌Web版(Ver.5)を用いて、キーワード「立ち会い分娩」と「効果」・「満足感」・「支援」・「産婦」・「褥婦」・「夫」・「子ども」・「実母」・「家族」の1つを組み合わせ、原著論文に限定し検索を行った。抽出した156件のうち、重複文献を除外し、夫や家族の立ち会いにより得られる効果が記載された15文献を研究対象文献とした。
2. 分析方法:1)研究対象者、研究方法を概観した。2)研究対象者別に、立ち会いの効果に関する研究結果を、意味が分かる文脈で抽出した。
3. 倫理的配慮:論文の著作権を侵害することがないように出典を明らかにし使用した。

結果

1. 研究の動向

研究対象者は立ち会いを経験した者のうち、褥婦5件、夫7件、夫婦3件であった。研究方法は質的研究4件と量的研究11件であった。

2. 褥婦が感じた効果

褥婦自身が感じた夫が立ち会った効果について量的・質的研究別に以下に示す。アンケート用紙を用いた量的研究結果より、夫とともに呼吸法を一緒に行ったり、マッサージの提供を受けることで分娩中に不安がやわらぎ、安心感が得られ^{13),22),24)}、リラックスできること¹³⁾、夫からの直接的な援助ではなくても、付き添ってくれたことで安心感や感謝、分娩が乗り越えられた喜びを共に感じ²⁰⁾、児の誕生の喜びや感動を夫と分かち合い、夫婦間のきずなが深まったとも感じていた¹³⁾。また、褥婦が感じた子どもが立ち会った効果としては、子どもが母親にねぎらいの言葉をかけた¹⁰⁾、赤ちゃんに声をかけたりすることであった¹⁰⁾。

質的研究において、子どもが立ち会った効果は、産後は些細なことでは怒らない子どもになったり¹⁴⁾、赤ちゃんの面倒をよく見てくれたり、遊びの中に女の子は助産院ごっこ、男の子は自分が父になった時の想像をするなどの遊びをするようになったと母親は感じていた¹⁴⁾。

2. 夫が感じた効果

量的研究では、立ち会い分娩を行った夫は、立ち会わなかった夫より育児協力度や¹⁰⁾、父親としての自覚・責任が高くなり^{16),22)}、女性の強さや出産の大変さを実感していた^{17),23)}。立ち会い分娩群は非立ち会い群に比べ、夫がお風呂に入れる、おむつを替えるなど、夫の子に対する愛着行動や育児協力度が有意に高かった¹¹⁾。

質的研究では父親としての責任が高くなる¹⁷⁾と自覚していた。

考察

立ち会い分娩の効果に関する15文献を検討した。産婦・褥婦への効果は、夫の直接的な産婦への支援や付き添うだけの支援であっても産婦がリラックスや分娩を乗り越えられた喜びや児の誕生の喜びを夫と共有できることで出産に対する満足感を得ていた。

満足感の高まりは、豊かな出産体験となると考える。豊かな出産体験は、産後の母親役割を肯定的にとらえ、育児不安やストレスを軽減することに役立ち⁶⁾、出産満足度の高まりは母親の児への愛着を高める⁵⁾。

母親が感じた子どもへの効果は、母親や赤ちゃんに声をかける、赤ちゃんの面倒をよくみるといった行動、些細なことで怒らないといった情緒の変化や遊びの多様化であった。子どもが母親に対する応援や、児への関心を示す行動は、他者意識の芽生えといえ、自分の存在を明確にし、自己を意識した言動が促され⁷⁾、同胞の発達につながると考える。また、小児の遊びは自発性を育て、集中力を向上させることから⁷⁾、遊びの多様化は子どもの発達を促すと考える。

夫への効果は、育児への積極的参加、父親としての自覚と責任の向上、産婦に対する感謝の気持ちの高まりであった。これらは、出産に立ち会った夫が子どもの成長を身近に感じ、良好な夫婦関係を促進し、家庭が安定することにも繋がる⁸⁾。

以上のような立ち会いの効果は、立ち会い制限下では得られにくい。

そこで、立ち会いを希望する夫婦には、夫の出産前教室の受講は親(父)となる心の準備を整えるのに効果的であるため⁹⁾、非対面的講義を活用した出産前教室や両親学級の早期再開、防護服を着用した立ち会いの再開、立ち会いにリモートで参加する機会を作るといった支援を検討する必要がある。また、立ち会えない子どもに対しては、母親学級時間を活用し出産場面の模擬体験の機会をつくるなど、支援の工夫が必要である。

結論

1. 立ち会い分娩の産婦・褥婦への効果は、夫が立ち会うことでリラックスしたり安心感を得ることができ、分娩を乗り越えられた喜びや児の誕生の喜びを共有できることで満足感が増すことであった。
2. 母親が感じた立ち会った子どもへの効果は、母親や赤ちゃんに声をかけ、面倒をよくみる、遊びの変化などがみられるといった行動の変化・多様化があり、同胞の発達が促されることであった。
3. 立ち会った夫への効果は、育児への積極的参加、父親としての自覚と責任の向上、産婦に対する感謝

の気持ちが高まることであった。

4. コロナ禍における立ち会い分娩再開に向けた支援は、出産前教室で同胞が立ち会いの模擬体験の機会が得られるような支援、夫が参加できる非対面的方法による出産前教室や両親学級の開講や立ち会い分娩再開など、物・人・環境を整える必要がある。

表1 対象文献

番号	研究者	研究対象者	方法	著者	発表年代	論文タイトル	出典
10				河谷麻貴, 平井愛子, 馬渡佐知枝他	2003	性教育の視点からみた子ども立ち会い分娩の効果	母性衛生, 44巻4号 Page472-480
11				高橋恭子, 川原まどか, 堤淳子他	2004	立ち会い分娩が夫の育児・家事参加に与える影響について	母性看護, 35号 Page105-106
12		褥婦	量的研究	天福知恵子, 藤川博子, 川端そよ花他	2015	立ち会い分娩において初産婦が夫から得た援助の実際と満足度産婦の年代別で比較して	日本看護学会論文集, 45号 Page3-6
13				山口智恵美, 審明子	2018	夫立ち会い分娩に対する褥婦の思い 初産婦と経産婦を比較して	徳島市民病院産婦人科病棟, 32巻 Page53-59
14			質的研究	平田賢子, 椎葉奈子, 中西直子	2012	子ども立ち会い分娩後の家族関係の変化 母親のインタビューを通して	天理看護学院助産学科6期生, 25号 Page29-33
15				青野真歩, 高木恭子, 笹川泉他	2005	分娩立ち会いが立ち会う夫の感情に与える影響: 立ち会い群と非立ち会い群の比較	母性衛生, 45巻4号 Page530-539
16				中島通子, 牛之濱久代	2007	立ち会い分娩後の夫の意識に関する研究	母性衛生, 48巻1号 Page82-89
17			量的研究	秋山晴美, 森本純子, 落合永美	2011	立ち会い分娩における夫の体験	島根県中病医誌, 35巻 Page9-12
18		夫		松田佳子	2015	立ち会い出産における夫の満足感と立ち会い体験および妻への親密性との関連	日本看護大学学会誌, 38巻1号 Page93-100
19				三上里枝子, 村上より子, 久保美代子	2009	立ち会い出産を通して変化する夫の気持ち	日本ウーマンズヘルス学会誌, 8巻1号 Page65-73
20			質的研究	川副真由美, 荒牧順子, 東梨恵子他	2013	当院における"お父さんズイッチ"について	内野産婦人科, 16巻1号 Page22-24
21				千葉朝子, 中垣明美, 村瀬智子	2019	立ち会い分娩を体験した夫の分娩経過中の気持ち	日本赤十字豊田看護大学紀要, 14巻1号 Page65-72
22				阿蘇のり子, 福多祥子	1996	夫立ち会い分娩における意識調査	弘市病医誌, 5巻1号 Page64-71
23		夫婦	量的研究	松永由香	2014	夫立ち会い出産の現状と夫婦の意識調査 分娩時に必要な助産師による支援	百葉医誌, 62巻5号 Page779-784
24				佐藤由美子, 安藤万里子, 宮川葉子	2005	陣痛室夫立ち会い分娩時の夫婦の感情	母性看護, 36号 Page3-5

引用文献

- 1) 島田 三恵子(2013): 母親が望む安全で満足な妊娠出産に関する全国調査 一科学的根拠に基づく快適で安全な妊娠出産のためのガイドラインの改訂-, 厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業) 分担研究: [http://minds4.jcqh.or.jp/minds/pregnancy/G0000595/01_Introduction.pdf\(2021.9.7\)](http://minds4.jcqh.or.jp/minds/pregnancy/G0000595/01_Introduction.pdf(2021.9.7))
- 2) 千賀悠子, 堀口貞夫, 水野聖子, 望月武子(1989): 周産期ケアと両親教育に関する研究, 日本総合愛育研究所紀要, 25号 Page109-117,
- 3) 新型コロナウイルス感染 日本 の 1 年. (2021,1,15), 朝日新聞デジタル [https://www.asahi.com/special/corona/japan-yearly/\(2021.9.7\)](https://www.asahi.com/special/corona/japan-yearly/(2021.9.7))
- 4) 木村正, 木下勝之, 山田秀人. (2021): 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)関連情報, 公益社団法人 日本産科婦人科学会, 20210814_COVID19_02.pdf ([jsog.or.jp/\(2021.9.7\)](http://jsog.or.jp/(2021.9.7)))
- 5) 有本梨花, 島田三恵子(2010): 出産の満足度と母親の児に対する愛着との関連, 小児保健研究 69 巻 6 号 749-755
- 6) 竹原健二, 野口真貴子, 嶋根卓也, 三砂ちづる(2009): 豊かな出産体験がその後の女性の育児に及ぼす心理的影響, 日本公衆衛生雑誌 56 巻 5 号 312-321
- 7) 舟島なをみ(1999): 看護のための人間発達学, 第 2 版, 第 2 章 p.45, 医学書院
- 8) 厚生労働省(2022): 「イクメンプロジェクト」リーフレット, [https://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/pamphlet/10.html\(2022.9.1\)](https://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/pamphlet/10.html(2022.9.1))
- 9) 井上千晶, 長島玲子(2017): 出産前教室が夫の対児感情及び育児動機に及ぼす影響 乳児とその親との関わりの有無による比較, 島根県立大学出雲キャンパス紀要 12 巻 Page1-10
- 10) 10)~24) は表 1 参照